AMCoR
Asahikawa Medical University Repository http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/

看護研究集録 (2019.7) 平成30年度:84.

短期入院で術後補助化学療法を受ける大腸がん患者がセルフマネジメントする力を培う体験

國本 紅美子

短期入院で術後補助化学療法を受ける大腸がん患者が
セルフマネジメントする力を培う体験

6 階東ナースステーション　國本紅美子

【目的】術後補助化学療法を受ける大腸がん患者が治療を繰り返しながら成長していく姿から、患者がどのようにセルフマネジメントする力を培っていくのか探求する。

【対象】術後補助化学療法を受けるために3日程度の短期入院を繰り返す大腸がん患者。

【方法】患者のありのままの体験の語りをデータとするため半構成化面接を行い、逐語録を作成した。現象学に基づくGiorgiの分析方法を用いて体験の記述を解釈し、個別性を重視しながら共通性を見出した。研究の全過程において質的研究者よりスーパーバイスを受け、信頼性の確保に努めた。

【結果】対象者は50～70歳代の男性1名、女性2名で、3名ともmFOLFOX6療法だった。面接は3回/人、インタビュー時間は平均46分/回だった。対象者の体験の記述と解釈から得られた共通性は、＜がんに罹患し先の見通しがもてないなかでも、本来もつ力から自分なりの手立てを生み出し、治療を受けながら生きていく覚悟をもつことができるようになる＞＜治療に戸惑いを感じる自分の在り様を見つめ直し、治療に取り組む自分へとシフトしていくようになる＞＜症状体験と対処を繰り返しながら、自信の積み重ねを確信に変えて、生活と治療の両方を成り立たせるように、バランスよく調整するようになる＞などの５つが見出された。

【考察】短期入院で術後補助化学療法を受ける大腸がん患者がセルフマネジメントする力を培う体験とは、がんに罹患しても失われずに存在する潜在的な力から、状況に順応するために必要な力を発揮し、治療の意味づけを捉え直しながら治療を受ける自分へとシフトしつつ、ようやく治療と向き合うことができるようになる体験だった。そこには、自分なりの手立てを見出して積み重ねた自信を確信とする、再発する可能性をもち合せながら希望をもって現在を豊かに生きるなどの体験が折り重なり合い、目標達成に向かうことができるようになっていく、という意味が考えられた。